

チャレンジ 三高生！

探究コーチ事業 ～形が想いを伝える SDGs ワークショップ～

2月2日、三戸町教育委員会が主催する「探究コーチ事業」が1年生23人を対象に行われ、精密機器製造会社コニカミノルタ(株)と(株)プラスティ教育研究所の社員が講師を務めました。

今回のテーマは「形が想いを伝える SDGs ワークショップ」で、(株)コニカミノルタ・プロダクションプリント事業部ビジネス開発グループの宮木俊明グループリーダーは、環境保全の取り組みについて生徒たちに伝えました。

ワークショップでは、グループごとにブロック玩具を使って「10年後にあってほしいもの」などを作り、作品について自分たちの言葉で説明。その後、グループの作品を関連付けたらどのような作品ができるかを議論しました。

ワークショップに参加した生徒は「自分の気持ちを実際に形にするという新しい体験ができ、楽しみながら学ぶことができました」と感想を話し、アイデアを生み出す力の向上につながることができました。



講義に耳を傾ける生徒たち



ブロック玩具を使ったワークショップ

三戸中央病院で約30年、助産師・看護師として尽力

田村 京子さんが「第51回医療功労賞」を受賞しました

【田村京子さん(65) 経歴】

1993年に主任助産師として三戸中央病院で採用。病棟外来や透析室看護師を経て、2021年3月に再任用職員としての任期を終えました。現在は、パートタイムとして内科や婦人科外来を担当するほか、助産師として赤ちゃんと母親を訪問し、育児支援も行っています。

田村さんは、長年にわたり地域医療の向上に貢献した人に贈られる「医療功労賞」を受賞。全国を8ブロックに分けた「地方表彰」の対象者35人のうちの1人に選ばれ、表彰されました。



田村さんは、看護学校で経験したお産の実習を通して、新しい命が誕生する瞬間を目の当たりにし、助産師の道に進むことを決めました。

三戸中央病院の産婦人科病棟が医師不足で廃止された後も、田村さんは看護師として地域医療の向上に貢献。「患者さんが元気になっていく姿を見ると意欲が湧く」と看護師の仕事にやりがいを感じていました。

現在は、助産師として訪問による育児支援も行っている田村さん。「あるとき訪問した母親が、当時主任助産師だった私を取り上げた子だったこともありました。あのとき取り上げた子が成長し、子育てしている姿を見て、助産師をやっていて良かったと改めて感じました」と笑顔で話しました。今後について田村さんは「体力が続く限り仕事を続け、患者や母子に寄り添っていきたい」と力を込めました。